



私たちは、外界と自分の間に一つの膜を隔てることで、外の景色や気配を間接的に感じ取る。傘をさして歩いた時の緑の眩しさや、耳元で弾ける雨粒の音。襖の向こうに聞こえる鳥の声や、簾越しの光... これらを、直接触れるよりもむしろ美しく、親密に感じることはないだろうか。

“透感”をもたらす可動東屋「東傘」

このように、半透明的な膜を介して外界を観測する行為は、私たちの感覚を内的に変換し、世界を新たに感じさせる。

私たちは、この感覚を「透感（とうかん）」と名付けた。

